

## 令和7年度 高志中学校1年 「高志学」福井県立大学訪問研修

- 1 期 日 3月6日(金)
- 2 場 所 福井県立大学 永平寺キャンパス・あわらキャンパス
- 3 講 師 生物資源学科 深尾 武司学部長、西原 昌宏学科長、風間 裕介教授  
松井 孝憲准教授、篠原 秀文准教授、  
創造農学科 三浦 孝太郎教授、森中 洋一教授
- 4 参加生徒 88名
- 5 報 告

午前中は講義室で生物資源学科・創造農学科に関する講義が行われました。最初に元高志中学校長でもある窪田裕行理事長から、童話「うさぎとかめ」をもとに絶対評価と相対評価についてお話いただき、個々人がそれぞれの目標を定めて行動していくことの大切さを学びました。



次に、生物資源学部の深尾武司先生、西原昌宏先生、風間裕介先生からお話いただきました。福井県立大学をはじめとする大学での学びの概要についてお話いただき、「何のために学ぶのか」という根本的なことから、ゲノムや染色体についての専門的な内容まで講義していただきました。

午後からは3グループに分かれて実習を体験しました。グループ1では、ヒトの細胞を観察することをテーマに、自身の口腔内の細胞をとって顕微鏡で観察しました。グループ2では、生物から物質を取り出し、必要なものだけを分けることをテーマに、パセリやその他の植物を使って、クロマトグラフィーで植物から色素を取り出しました。グループ3はあわらキャンパスに移動し、様々な種類のお米をヨウ素デンプン反応で分析するとともに、実際にお米を炊いて食べて、アミロースとアミロペクチンの割合の違いによる味の変化を調べました。



### 【生徒の感想から】

- ・「うさぎとかめ」の話から、周りの人と比べるよりも、自分で決めたゴールに向かって努力する方が自分のためになり、より成長できるということを改めて感じました。
- ・単純な興味を追求することで大きな発見が生まれた事例があったことを聞いて、私も小さな興味の一つひとつを大切にしていこうと思いました。
- ・実験では、専門的な知識を学ぶだけでなく、実験の手順は同じにして、試料だけを変えて実験結果を比較するという研究を進める方法についても学ぶことができました。